

FEDERAL RESERVE NOTE

100

THE UNITED STATES OF AMERICA

100

F₂

THIS NOTE IS LEGAL TENDER
FOR ALL DEBTS, PUBLIC AND PRIVATE

B 88596652 A

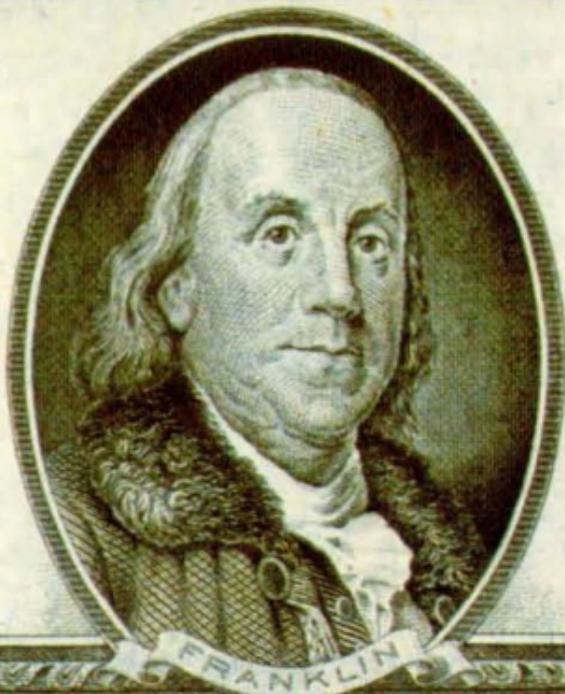
2



WASHINGTON, D.C.

2

B 88596652 A



2

Francine A. Jeff
Treasurer of the United States.

SERIES
1974

William E. Simon
Secretary of the Treasury.

2

F₃₈

100

100

ONE HUNDRED DOLLARS

100

100

ブリンクス

THE BRINK'S JOB

〈カラー作品〉日本ヘラルド映画



FBI創設以来の大捜査

前代未聞のブリンクス事件に当時のFBI長官エドガー・フーバーは、烈火の如く怒り大捜査命令を下した。それはFBIの歴史が始まって以来、最も長期にわたる、しかも最も出費のかさむ捜査であった。

17,954名の捜査員が動員され、131名のUSマーシャル、31名の政府代理人、更には地元ボストン市警などを加え、捜査費用は何と強奪金の約10倍にあたる2900万ドルにのぼった。しかし、6年の歳月をかけたこの必死の大捜査も、時効寸前、あと6日というところで実を結ぶ訳だが、回収された金額はたったの5万ドルにすぎない。

事件を重視し、社会的信用を気にしたブリンクス社の社長は、「犯人逮捕協力者には10万ドルの懸賞金を与える。これは犯人の生死に拘らずである」との声明を発表した。この声明に対し「快挙」を支持する市民から「生死を問わずとは何だ、非人権的だ」との抗議がブリンクス社に殺到したという。



It happend on
JAN. 17 1950!



〈スタッフ〉

製作……………ディノ・デ・ラウレンティス
〈キング・コング〉
監督……………ウィリアム・フリードキン
〈フレンチ・コネクション〉
原作……………ノエル・ベン
〈集英社・PLAYBOY BOOKS刊〉
脚本……………ワロン・グリーン〈ワイルド・バンチ〉
撮影……………ノーマン・レイ
美術……………ディーン・タブラリス〈地獄の黙示録〉
音楽……………リチャード・ロドニー・ベネット

製作……………ディノ・デ・ラウレンティス
〈キング・コング〉
監督……………ウィリアム・フリードキン
〈フレンチ・コネクション〉
原作……………ノエル・ベン
〈集英社・PLAYBOY BOOKS刊〉
脚本……………ワロン・グリーン〈ワイルド・バンチ〉
撮影……………ノーマン・レイ
美術……………ディーン・タブラリス〈地獄の黙示録〉
音楽……………リチャード・ロドニー・ベネット



2,700,000\$強奪ブリンクス事件の経過

1938年(昭和13年) 「ブリンクス」、全米最大の金融警備会社に成長。年間の扱い高は1兆ドル。
1944年(昭和19年) 9月12日 トニー・ビノ、ディアー島刑務所から出所。この頃から、トニーは次の犯行をブリンクスに定め下調べに入る。
1950年(昭和25年) 1月17日 トニー、仲間6人と**ブリンクス襲撃を執行、270万ドル強奪**に成功。この時、フリードキン監督11才。
6月25日 朝鮮戦争勃発。
1954年(昭和29年) ペンシルバニア州でスペッキー別件逮捕。ガスも銃器不法所持で逮捕。
1956年(昭和31年) 1月 ガス・グッチオラ獄死。
1月11日 スペッキー、ブリンクス襲撃事件を自白。トニー、ジャズ、ビニー、ジョーの4人は続々と逮捕。サンディは逃亡。あと6日で時効成立だった。スペッキーは、FBIにカリフォルニアに新しい戸籍を用意してもらい、俳優のケリー・グラントのお抱え運転手となる。
サンディ・リチャードソン逮捕。
1958年(昭和33年) スペッキー、心臓マヒで死亡。
1967年(昭和42年) ジョー・マッキネス、獄死。
1968年(昭和43年) トニー、サンディ、ビニー、ジャズ、刑期を終え、次々と出所。
1969年(昭和44年) トニー、サンディ、ビニー、ジャズ、刑期を終え、次々と出所。
1970年(昭和45年) 映画「ブリンクス」撮影開始。サンディ、ビニー、ジャズの3人は演出アドバイザーとして雇われ、サンディとジャズは特別出演。トニーは数年前に死亡。
1978年(昭和53年) 5月1日



ブリックス事件の全貌

「フレンチ・コネクション」「エクソシスト」の鬼才ウィリアム・フリードキン監督と、「コロンボ刑事」でおなじみのピーター・フォークが手を組んで、世界中をアツといわせようと企んだ話題の娯楽超大作である。

「ブリックス」とは、ワシントン・ペリー・ブリックという男が、たつた一台の馬車を使って始めた金融警備会社である。ポストンに居を構えるそのブリックスは、この映画の背景となつて1940年代には、全米で4000以上の都市に5万件の得意先を持つようになり、何と年間1兆ドル（現在の約2000兆円）の現金をあつかう全米最大の金融警備会社に成長した。自らを「アメリカの富の番人」と呼び「我が社の辞書に事故・盗難の文字はない」と豪語するブリックスは、まさに難攻不落の砦と呼ぶにふさわしかった。

しかし、絶大な信用をもつそのブリックスの神話が崩れるときがきた。1950年1月17日、ブリックスの鉄壁の大金庫が7人の男たちによつて破られ、アツという間に20万ドル（現在の約54億円）が持ち去られたのだ。主犯格のトニー・ピノ（何と刑事から一転してピーター・フォークが演じる！）は、6歳のとき八百屋からリンゴをかっぱらつて裏町人生にデビューし、以来下着にはじまる生活必需品のすべては護摩の灰でまかなうという超ベテランの盗人だった。歌手にとつてカーネギー・ホールがそうであるように、トニーにとつていつしか「ブリックス破り」は人生最大の夢となつていった。大いなる夢想にとりつかれたトニーは、6人の仲間と準備に6年を費し遂に「史上空前の犯行」を実行したのだ。ポストン市警とFBIは勿論だまつてはいなかった。特にFBIは開設以来の大捜査を展開した。

映画はこの実話事件をモデルに、人生の裏街道を歩む男たちが一生一度の晴れ舞台にかけた夢と執念を鮮烈に浮き彫りにしながら、時効をリミットにスリリングに展開するトニーたちとFBIの熾烈な戦いを描いていく。

真犯人登場!?

犯人たちを歓呼の声で迎えるクライマックスでの群集シーンに、特筆すべき年老いた二人のエキストラが登場している。実際のブリックス事件の犯人のうちの二人サンディ・リチャードソン（72才）とジャズ・マーフィー（65才）である。何と、彼らは自分たちに歓呼の拍手を送つたのだ。撮影中には、偶然訪づれた現在のブリックスの重役と鉢合わせし、近々開かれるブリックスのパーティーへ誘われたが、ジャズが「ブリックスには金をあづけてないが、いいのかね」と答えるという何とも珍妙でユーモラスな光景が見られた。「チャンスがあればまた同じ事をやるか」というジャーナリストの質問に「冗談じゃない！世間の奴はあの事件があつたかと思つて聞くけど、犯罪が割に合うなら、いい年こいて誰が沖仲仕なんかやつてるもんか！」と答えるサンディは現在港灣労働者として、ジャズは自動車販売業者として平和な毎日を送っている。



コロンボ刑事が世紀の大泥棒に変身!

事件の首謀者トニー・ピノを演じるのは、TVシリーズ「刑事コロンボ」のピーター・フォークである。ブラウン管では名刑事として圧倒的な人気の彼が、よりによつて本来自分が追わなければならない泥棒、それも世紀の大泥棒を演じるのは、何とも皮肉なことである。

それでも、ヨレヨレの上着、ダブダブのズボンで登場するトニー・ピノは、くたびれた背広に、夏でもいっこうに構わず着ているレインコート姿の誰かを彷彿させてユーモラスである。

「習った事もそろそろ忘れなくちゃねえ、映画の撮影はもう終わったんだからね」とは、コロンボ刑事の苦々しい呟きである。

乱れとぶ空前の札束!

「今世紀最大の犯罪」新聞の見出しはこうだった。十分と経たぬうちに、犯人達は強奪金社の大金庫から強奪した。この270万ドルという金額、現在の貨幣価値に換算すれば、1976年の54億42万円に相当する（総理府統計局による消費者物価指数を参考、当時のレート1\$=¥360）。

当時のFBI長官J・エドガー・フーバーは、烈火の如く怒り大捜査命令を下した。それはFBIの歴史が始まつて以来、最も長期に渡り、出費のかさむ捜査であつた。強奪金の10倍以上の2900万ドルの税金が捜査に投入され、さらに犯人逮捕の為に10万ドルの懸賞金が金米市民に公布されたが、結局強奪金のうち5万ドルしか取り戻すことが出来なかつた。市民には、思わず喉から手が出そうな位の巨大でペラペラな額の札が当時のアメリカでは乱れとんだのだ。

さて、強奪金の行方であるが、分け前を除いた残りの約200万ドルは、ジョーがどこかへ隠したが、彼が死んだ為未だ行方不明である。事件から28年後の今、札束を狂喜の余りもて遊ぶシーンでは、撮影の為に使用される本物の現金を実際に警備・運搬したブリックス社の社員が、実に苦々しい面持ちで警備していたという。今度は1ドルの消失もなかつた。

タイムマシンにのつたポストンの街並

78年の夏のある日、長年ポストンに住み慣れたある年配の紳士は、スコレイ広場に至る角を曲つたところで驚きの余り立ちつくしてしまつた。一夜のうちに、広場の光景が一九三八年当時のそれになつていたのである。「ブリックス」の撮影は、実際のポストンの街並に周到かつ精密なセットを施して行なわれた。この天才的な美術演出を担当したのは「ゴッドファーザー」でアカデミー賞を受けている美術監督のデイヴィン・タバリスである。彼は1938年頃のポストンを再現するために、当時の風俗を綿密に調べ上げ、出来る限り古道具や骨董品をかき集め、当時の絵画の色調さえ微細に検討したのである。

こうして、例えばFBIの協力は何百枚という現場写真を参考にして再現されたブリックスの事務所と金庫は、この映画に特別出演している実際の犯人の一人サンディ・リチャードソンをして、「昔のまんまだよ。唯ひとつ違うのは、金庫の中身だけだ」と言わしめる程であつた。

余りにも見事なオールド・ポストンの再現に感激したポストン市長は、撮影終了後も観光名所として、幾つかの区域をセットそのままの形で永久に残すという粋な決定を下した。

- ＜ブリックス襲撃メンバーとその横顔＞
- ◇トニー・ピノ（6歳で泥棒の世界にデビューした超ベテランで、仲間の親分。）「刑事コロンボ」の〈ピーター・フォーク〉
 - ◇ビニー・コスタ（トニーの義弟で、気はいいが仲間一番のおっちょこちょい。見張りが特技。）「ナッシュビル」の〈アレン・ゴウウィッツ〉
 - ◇サンディ・リチャードソン（トニーとの裏町人生でのつき合いは、ガスと並んで仲間一番古い。親分の信用は大。）「恐怖の報酬」の〈ゲリー・マーフィー〉
 - ◇ガス・グッチオラ（トニー、サンディとは昔馴染み。娼館にいるより監獄の方が長い生え抜きの泥棒。）〈ケビン・オコナー〉
 - ◇ジャズ・マーフィー（開かない金庫は投げつけて破壊する仲間一番の怪力。ノミ屋の出。）「オーノゴッド」の〈ポール・ソルビノ〉
 - ◇ジョー・マッキネス（戦場掃りの、無口でタフな荒くれ男。換金のプロ。）「タクシー・ドライバー」の〈ピーター・ボイル〉
 - ◇スペッキー・オキーフ（多くの熱意に輝く戦場の勇士。ブリックスをバズーカ砲で吹き飛ばしたがる仲間一番の血の気の多い男。）「テリジジャー」の〈ウオーレン・オーツ〉

ブリックス

THE BRINK'S JOB
＜カラー作品＞



- 「我が社の辞書に事故・盗難の文字はない」ブリックス金融警備会社
- 「俺たちの辞書に失敗の文字はない」!? トニー・ピノと6人の仲間

◆2月24日(土)ロードショー!

●国電東口駅前
吉祥寺セントラル 0422(48)6521